

令和4年度 学校関係者評価報告

鹿児島中央看護専門学校3年課程看護科では、平成23年度より教育活動実施状況を総合的かつ客観的に点検・評価し問題点を明らかにした上で次期の教育活動や学校運営の改善に活かし、開かれた学校づくりを進めることを目的とした「教育自己点検・自己評価」（令和元年度より「教育自己評価」とする）を実施しています。更に、令和元年度から関係業界、保護者代表等、学職経験者から成る「学校関係者評価委員会」を設置し、学校関係者評価を実施しております。

令和5年3月23日に「令和4年度教育自己評価」「令和4年度事業報告」の結果をもとに、学校関係者評価を実施いたしましたので、以下のとおり報告いたします。

令和5年4月1日

●学校関係者評価委員

高谷 哲也 鹿児島大学教育学部 （欠席）
富安 恵子 前鹿児島中央看護専門学校校長
木佐貫 涼子 公益財団法人慈愛会統括看護部長兼看護部支援室室長
松山 郁子 同窓会やよい会会長

評価会参加教職員

校長：今村英仁 副校長：久徳美鈴 顧問：大保まり子 事務長：飯田珠美
教務主任：櫻美尚美 実習担当主任：中村栄子 専任教員：大磯陽子、高山理恵、飯田かずよ

●令和4年度事業報告総括（久徳）

【財務の視点】

- ・令和5年度も質の高い入学生確保に向け、積極的に学校訪問実施。コロナ禍ではあったが、オープンキャンパスも89名が参加した。本校の強みは浸透してきている。ご家族の関心も高く、推薦入試27名が受験した。（当校を知った理由：先輩・知人から、親兄弟・親戚が圧倒的。本校に興味をもった理由：カリキュラム・実習環境93%、国家試験合格率、ICT充実である）
- ・令和5年度の入学生は45名を確保したが、受験生の減少は続いており、本校の強みをさらに広報することが重要である。放送大学のダブルスクール制度は2年目となり現在26名が学んでいる。
- ・本年度卒業生の県内就業率は98%となり、鹿児島県への地域貢献が示唆される。また、慈愛会就職の学生も最多となり当法人への貢献度も高い結果である。
- ・本年度も看護技術教育に必要なシミュレーション機材の購入等、計画的に予算執行でき健全な経営ができた。

【顧客（学生）満足の視点】

- ・学生支援については、学年担当を中心に学年目標を掲げ、丁寧に活動した。また、学生一人ひとりの面接、動機

づけを行いながら支援してきた。しかし、年々学力の差が大きくなり、下位の学生の支援の強化が必要である。

- ・本校の卒業率は 95%～98%で推移している。休学は本年度 2 名であったが、1 名は進路変更にて退学となった。休退学は減少している。
- ・国家試験への学生支援は 3 学年を通じたパスの活用が定着、3 年次の強化対策も全教員で入り、支援は定着。52 名全員、受験に臨むことができた。
- ・放送大学在学者は 26 名、支援チームで学習の進め方、看護学士取得への科目の取り方など指導。学習に追いつかない学生は個別指導実施。細やかな対応が必要でる。
- ・学生の経済的支援は、本年度も慈愛会奨学金含め、コロナ禍における修学支援など、行政の情報を早期に収集し、学生の経済面の支援に繋げた。社会人対象の専門実践訓練給付金は 34 名、高等教育無償化利用者は 30 名となり多くの学生の学びやすい環境を整備できた。

【業務プロセスの視点】：事業目標 3 点について取り組んだ

① 「社会から求められる看護実践力の高い看護師の育成」

- ・令和 4 年度の入学生から新カリキュラム適用。ディプロマポリシーをふまえ、教育活動を実施し、計画通り進んできており、1 年次のディプロマポリシーへの到達状況も確認することができた。2・3 年生カリキュラムもコロナ禍であったが計画通り進めることができた。
- ・カリキュラム検討会を中心に、看護技術到達マニュアルや手順の整備に着手し、運用を開始することができた。
- ・実習のルーブリック評価については、主体的な学びに繋がるよう科目ごとに充実を図る。
- ・コロナ禍ではあったが、本年度の地域の多様な場での学習は計画通り実施でき、学生は学びを深めた。
- ・臨床現場と協働する OSCE は各施設の看護師の参画もあり、対応について学生は学びを深めた。

② 「基礎教育の動向に対応した学習環境の整備、学生支援体制の強化」

- ・教育の質向上に向けて、チーム活動を実施し各科目での教育方法等共有を行ってきた。各教員は、学生が主体的に学べるよう授業の工夫に取り組んだ。（研究授業の実施）
- ・電子テキスト等含めた ICT 推進について本年度は、講義資料のペーパーレス化に取り組みデジタルノートの活用を推進した。時代を見据えた、講義資料のペーパーレス化は 6 カ月を経過して課題も見えており今後、改善や工夫が必要となる。
- ・安全管理体制については、コロナ対応マニュアルを随時更新しながら対応してきた。今後、福祉施設避難所としての役割を果たすためのマニュアル整備等実施していく。

③ 「学校の存在価値を高め、地域に必要とされる学校運営の推進」

- ・本年度も学校教育自己評価を実施。教員会議や評価会を通して課題を共有し改善に繋げた。
- ・学校の存在価値を高めるための活動として、鹿児島県看護教育協議会会長校として役割を遂行中。また、教育実習生の 2 名の受入れを行い、実習生の支援が行えた。協会への積極的人材派遣、卒業生のサポートキャンプを実施できた。
- ・校舎移転計画については、進んでいないが、熊本・福岡の学校訪問ができ、ビジョンや設計に向け検討できた。次年度も継続する。

【学習と成長の視点】

- ・教職員は多忙な中ではあったが、計画的に研修に参加し、会議で共有し教育に活かしている。
- ・本年度、看護教員ラダー申請は3名、教員の資質向上のため目標管理の支援やラダー支援を丁寧に行う必要がある。
- ・本年度は、今村総合病院へ臨床教員を配置し、臨床と教育をつなぐ架け橋となっている。新カリの目指す教育方針の周知だけでなく、現場の指導者育成に貢献している。
- ・日本看護学校協議会主催の教務主任研修 2名修了した。

●令和4年度教育自己点検・自己評価 報告（櫻美）

- ・令和4年度、教育自己点検・自己評価結果と次年度への改善事項について報告。

（結果は令和4年度 教育自己点検・自己評価参照）

次年度への主な課題として、①授業評価内容の見直し、②タスクシフトの更なる推進と評価、③ICT教育、ペーパーレス化の課題抽出と授業媒体の改善、④新たな教育方法、シミュレーション教育の推進、⑤新カリキュラムの評価継続、⑥看護教員キャリア開発ラダーの再構築等進めていく。

●協議事項

1. 教育理念・目標及び学校運営について

①事業報告や教育自己点検・自己評価結果から、継続された取り組みが教育の質を高めていることがわかる。本校の強みは、関連施設があることであり、入学者もそれを強みに入学してくる。しかし、学校の老朽化、狭小化というハード面は開校以来の課題である。学生の演習等に影響はないのか。今後の校舎の新築移転等についてはどのように考えているのか（富安委員）

・新しい学校づくりは、学校教員がどんな教育を目指すか、そのためのハードやソフト等の計画について主導権をもって進めてほしい。今村総合病院と共に検討していくと思うが、経営的なシミュレーションも必要である。（校長）

・これからの教育環境を考え、本年度もシミュレーションモデル等の計画的購入を行い、シミュレーション室の充実を図ってきた。学校のハード面は課題であるが、できるだけ学生が学びやすいよう工夫している。シミュレーションモデル等は県内でもトップクラスの充実した環境にあり本校の強みである。広報にも役立てる（久徳）

・学校移転プロジェクトは、今村総合病院とも連携しながら今後も継続していく。学生に選んでもらえる学校づくり、学びやすい環境づくりを検討していく。（久徳）

・課題のある学校環境ではあるが、入学生が選んでくれているということは、教職員の関わりの成果であると思っている。（校長）

②事業計画に地域・島しょ医療への貢献を具体的にあげ、卒業生を輩出していることは非常にありがたい。本年度、離島就職は1名であったが、これからも地域や離島医療に興味をもつ学生を送り出してほしい。関連施設としても離島に就職した人たちが成長できるような仕組みをつくりたい。（木佐貫委員）

・新カリキュラムでも地域への関心を高める教育内容や実践力を高める教育が推進されてきた。鹿児島県の看護職員確保対策検討会等でも離島医療に貢献する人材を育成するため、新たな修学資金制度の改正について検

討されてきている。離島に就職しても看護職として成長していける環境やシステムがあると卒業生も安心して多様な場に就職できると思う。（久徳）

- ・今村総合病院でもスペシャリストがオンラインを活用して、離島の看護師も含めた新人教育を実施する案を検討している。離島に就職する看護師の育成に寄与できると考えている（松山委員）

- ・法人内でも看護師の教育、離島含めた看護師の異動のシステム化に取り組んでほしい。（校長）

2. 教育活動、その他について

①教職員の細やかな教育は、学生ひとり一人に届いていると感じている。学生の実習評価から「相談しやすい雰囲気があった。」「実習指導者や看護師は学生の考えを尊重してくれた。」の項目が低い。関連施設として学生の評価を自覚しながら、実習環境を整えていきたい。（木佐貫委員）

- ・学生の実習評価結果については、教員と比較すると臨床スタッフへの満足度は低いが例年も同様である。密な関係にある教員との比較はできないが、臨床現場では学生目線になり丁寧に指導に当たって頂いている。指導上の課題については、指導者会議等でよく検討し共有がはかれている。学生が安心できる環境ができてくると学生の学びに繋がり、また、そのことが就職にもつながっていくので、臨床と協力して安心できる実習環境をつくってきたい。（中村）

- ・今村総合病院に就職している本校卒業生の実践レポートや成長シートからは、患者さんの人物像が想像される。患者さんの病気の側面だけではなく、人を見る力や人間を捉える力がしっかりと基礎教育で育まれていると感じる場面が多い。また、今村総合病院に臨床教員が配属され、学生の現状や教育の大事さが現場に浸透してきている。学生の援助で患者の回復も早く、現場の看護師も学生の力を評価している。これからも臨床の看護師と看護学生が共に看護について語り合える環境をつくってきたい。（松山委員）

- ・令和4年度は、慈愛会看護部との交流研修の機会に学校教育に関心のある看護師にたくさん来ていただいた。4月から就職していく卒業生の看護技術演習に参加してもらい、双方に大きな学びがあった。実習も含めて臨地の方々の協力なしには学びは得られない。卒業時の到達度をみても年々上昇してきており、本校の目指すところが教育内容に落とし込まれていると感じる。今後もどのような看護師を育成するのかを臨地の方々と共有し、ベクトルを合わせて指導していきたい。（久徳）

- ・本校はICT教育にも積極的に取り組んできている。本年度の卒業生はipadに電子テキストを導入した1年目の学生であり、卒業後の評価等もまたご意見を頂きたい。（大保）

②学生の支援について、学生ご意見箱は活用されているのか（富安委員）

- ・学生のご意見箱への意見の投稿は1件のみであった。学校への意見はアンケートへの投稿や教職員の支援もあるかと思うが、学生の変化に早期に気づく対応は今後も重視して行っていきたい。休退学者は1名～2名と減少している。（久徳）

- ・高校生の減少で受験者数は減少している。学校広報にホームページだけでなく、インスタグラム等も取り入れ、より学生目線の広報活動も進めて行きたい。その中で情報モラルの教育、著作権保護等についても定期的に指導していく。（飯田事務長）

●学校関係者評価 総括

今回の学校関係者評価は「令和4年度教育自己評価報告」「令和4年度事業報告」をもとに実施いたしました。特に本年度は、コロナ禍の先行きが不透明な中で、新カリキュラムの適用が開始となりました。新旧カリキュラムが混在する中、関わる教職員の負担もありました。委員の方々からは、教育理念、教育目標にそって教育が実施され、卒業生も目指すべき力を身につけていることを高く評価して頂きました。

しかし、施設設備面におきましては、施設の老朽化が進んでおり、今後、大規模改修や、建替え等を含めた検討を進めていくことが重要な課題となっています。2026年の新校舎移転実現に向けて、学校移転プロジェクトを中心に地域や病院とつながる夢のある学校づくりを進めて参ります。

今後におきましても、より良い学校運営を推進していくため、学校関係者の皆様から頂きましたご意見を真摯に受け止め、学校運営に活かしていくとともに、本校の教育理念に沿った、質の高い卒業生を看護師として継続的に輩出し、地域医療に貢献していけるよう努めていきたいと考えております。ご協力、ありがとうございました。